

小学校・中学校の次期学習指導要領改訂について

株式会社 学書

2017/7/27

■次期改訂は、「社会に開かれた教育課程」を重視

2017年3月31日に小・中学校の次期学習指導要領が告示されました。総則では、学校と社会の連携・協働の実現を図る「社会に開かれた教育課程」を実現するための考え方が明記されています。

また、「主体的・対話的で深い学びの充実」と明記され、いわゆる「アクティブ・ラーニングの充実」を色濃く反映した改訂になっています。

新指導要領実施に向けた全体の流れ	教科書の動き・その他関連情報
2017年(H29) <学習指導要領改訂> ⇒教科書会社が新(指)に基づく教科書を作成	随時発表される報道発表などによりますので、実際とは異なる可能性がございます。あらかじめご了承ください。
2018年(H30) 教科書検定 ※2018=小学, 2019=中学, 2020=高校	小学 2015年度版教科書を使用しながら一部先行実施=移行措置 (英語は新教科書を利用した一部先行実施) 中学 2016年度版教科書を使用しながら一部先行実施=移行措置 (小・中学で「道徳」の教科化スタート)
2019年(H31) 教育委員会が教科書採択・供給 ※2019=小学, 2020=中学, 2021=高校	高校 2017年度版教科書を使用しながら一部先行実施=移行措置 高校 基礎学力テスト開始 (現中3生対象)
2020年(H32) 新学習指導要領実施開始 ※2020=小学, 2021=中学, 2022=高校	高校 学力評価テスト開始 (現中3生対象 ※センター試験廃止) (小学3・4年『外国語活動』、小学5・6年『英語』の教科化スタート)

※「基礎学力テスト」→「高校生のための学びの基礎診断」
「学力評価テスト」→「大学入学共通テスト」と名称変更になりました。(2017年7月現在)

■小学校・中学校 次期学習指導要領改訂 教科ごとの主なポイント

国語 語感を磨き語彙を豊かにする指導/「考えの形成 or 深化」の領域項目を位置づけ

○都道府県名に使用する全漢字を小4までに学習。

⇒これにより、学年配当の移行と、学ぶ漢字数の増加(20字)が発生。小学校で学ぶ総漢字数は1026字に。

(例:「富」(小5)、「城」(小6)らが全て小4に。「潟」の小4追加)

○引用の仕方や出典の示し方、情報の信頼性の確かめ方など、情報の扱い方に関する事項の新設。

○言語活動例で、「少人数での話し合い」「文章や図表の活用」「電子メールでの表現」「インターネットの活用」等が追加。

社会 主権者教育・防災教育・海洋、国土教育の改善・充実

○選挙権年齢が高校生を含む「18歳以上」に引き下げられた影響から、主権者教育の充実をはかる。

(例:小3で市町村の仕事や税金の役割などを学ぶ 等)

○小6で、「日本国憲法と政治の仕組み」から「政治の働き」へ学ぶ内容の順番が入れ替えられる。

○竹島・尖閣諸島を「我が国固有の領土」として初めて明記する等、海洋、国土教育の充実をはかる。

○中学では、地理的分野が120時間から115時間へ5時間減、歴史的分野が130時間から135時間へ5時間増となる。

(例:「ムスリム商人の役割」「民族や宗教をめぐる対立」「地球環境問題」「琉球の文化」「アイヌの文化」等)

○歴史研究の進展に対応した表記の変更。

(例:「日華事変」→「日中戦争」、

「聖徳太子」→中学で、日本書紀や古事記において「厩戸皇子」と表記され、後に「聖徳太子」と称されるようになった、と扱う)

★意見反映により、2/14改訂案時に出されていた「モンゴルの襲来(元寇)」→「元寇(モンゴルの襲来)」、

「鎖国」→「幕府の対外政策」、「大和朝廷(大和政権)の統一の様子」→「大和政権(大和朝廷)の成立」の変更はなく、

「聖徳太子」→小6で「聖徳太子(厩戸王)」、中学で「厩戸王(聖徳太子)」の変更も前述のようになりました。

算 数・数 学 数学的活動・統計的な内容の充実

- 小学において、現行の4領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」から「数と計算」「図形」と「測定」「データの活用」(1年から3年)「変化と関係」「データの利用」(4年から6年)と統計を意識した内容に変更される。
- 小4で数量の関係同士を比較する材料として、簡単な割合を用いた比較の仕方を新たに扱う。
- 現行は中1で扱う「代表値(平均値・最頻値・中央値)」を小6へ移行。
点で分布の様子を視覚的に捉えられるグラフ「ドットプロット」を追加。
- 中1において「累積度数」の追加。
- 現行は高校で扱う「四分位範囲」「箱ひげ図」を中2で扱う。
- 中2の図形学習で「反例」を用語として新設。事柄が正しくないのを示す方法として扱う。

理 科 科学的に探究する学習活動の充実／日常生活や社会との関連を重視

- 現行は小5・6で学習する自然災害に関する内容を小4から取り扱う。
 - 現行は中3で学習する自然災害に関する内容を中1・2でも取り扱う。
放射能に関しては中2でも取り扱う。
 - 中学の化学分野において、「基礎的な金属イオン」「イオン化傾向」を扱う。
- ⇒東日本大震災を意識した内容

外国語活動・外国語科(英語) 「読む・書く・聞く・話す」の4技能を「読む・書く・聞く・話す・発表」の5領域で目標を設定

- 扱う語彙数は小3～6で600～700語程度、中学校では現行の1200語程度から1600～1800語程度まで増やす。
(高校卒業レベルで3000語→4000～5000語レベルに大幅アップ)
- 英語に慣れ親しみ、「聞く・話す」中心とした『外国語活動』を小3、4年で、そこに「読む・書く」を加えた正式教科『外国語(英語)』を小5・6年で履修する。
各学年年間35単位時間ずつ増加。(帯時間・土曜日の活用)
- 中学では、原則授業を外国語(英語)で行う。互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う、対話的な言語活動を重視。
- 中学において、「仮定法のうち基本的なもの」「S+V+O+原型不定詞」「S+beV+形容詞+that節」を新たに扱う。

総合的な学習の時間 探究的な学習活動にプログラミング教育

- 小学校ではプログラミング教育が必修化。
⇒総合的な学習の時間、算数小5「正多角形の作図」、理科小6「電気の性質や働きを利用した道具」などで必ず1回はプログラミングを体験し、論理的思考力を身につける。
- 中学では、技術・家庭の技術分野でプログラミングを扱う。

道徳 いじめ問題への対応の充実や発達の段階を一層踏まえた体系的な内容に改善

- 平成27年3月に先行して改訂済み。
- 検定教科書を導入。
- 数値による評価や他者との比較は行わず、個人内評価で記述する。
- 調査書(内申書)への記載や入試での活用は行わない。

その他 東京オリンピック・パラリンピック／和食や和楽器など日本の伝統文化

- 小学校・中学校ともに家庭科で和食の基本となる「だし」を取り上げるように明記。
- さらに、和服や和楽器など、日本の伝統と文化に関する教育を強化。
- 小学体育・中学保健体育で、オリンピック・パラリンピックを意識した、スポーツの意義・価値などに触れるよう明記。
また、陸上競技でリレーのバトン受け渡しについて触れている。
- 中学保健体育の「武道」で取り扱う例に、「銃剣道」を追加。

■小学校・中学校 次期学習指導要領改訂に関わる移行措置 教科ごとの主なポイント

国語

●小学校

新指導要領で追加された漢字を一部前倒しで全て履修

●中学校

・都道府県名に用いる、履修していない漢字(20字)の追加履修

茨、媛、岡、潟、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜

・32年度(2020)中1にて、「共通語と方言の果たす役割について理解すること」を履修

社会

●小学校

・30年度(2018)小5、31年度(2019)小5に関しては、「国土、領土教育」を前倒しで新要領に則る

・31年度(2019)小3に関しては、原則現行要領だが、一部選択履修するものに制限がかかる

例:「災害」について、火災、風水害、地震から選択 → 火災を取り扱う

●中学校

・31年度(2019)、32年度(2020)の授業時数に関しては、新要領に則る(地理 5時間減、歴史 5時間増)

・30年度(2018)～32年度(2020)において、下記の内容は新要領に則る

地理「領域の範囲や変化とその特色」 歴史「富国強兵・殖産興業政策」 公民「世界平和と人類の福祉の増大」

・31年度(2019)～32年度(2020)の地理において、新要領の「世界の様々な地域の調査」を追加

・31年度(2019)～32年度(2020)の歴史において、下記の内容は新要領に則る

「世界の古代文明」「ユーラシアの変化」「ヨーロッパ人來航の背景」「市民革命」

例)元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する

算数・数学

●小学校

・30年度(2018)小3～5、31年度(2019)小3～5について、「メートル法」を追加

・31年度(2019)小4について、「小数を用いた倍」、「簡単な割合」を追加

・31年度(2019)小5について、「速さ」を追加、「分数の計算」を削除→小6で履修

●中学校

・31年度(2019)中1、32年度(2020)中1について、

「素数の積」「累積度数」を追加、「誤差や近似値」、「 $a \times 10$ の n 乗」を削除→中3で履修

・32年度(2020)中1について、「統計的確率」を追加

・32年度(2020)中2について、「四分位範囲」「箱ひげ図」を追加

理科

●小学校

・30年度(2018)小4、31年度(2019)小4について、「光電池の働き」を削除→小6で履修

・31年度(2019)小5について、「水中の小さな生物」を削除→小6で履修

・31年度(2019)小6について、「電気による発熱」を削除→中2で履修

●中学校

・31年度(2019)中1、32年度(2020)中1について、

「2力のつり合い」「自然の恵みと火山災害・地震災害」を追加、「水圧」を削除→中3で履修

・32年度(2020)中1について、「動物の仲間」を追加、

「圧力」を削除→中2で履修、「葉・茎・根のつくりと働き」を削除→中3で履修

・32年度(2020)中2について、「放射線の性質と利用」「自然の恵みと気象災害」を追加

「生物の変遷と変化」を削除→中3で履修

外国語活動・外国語科(英語)

来年度小3から外国語活動を限定的に行う。

移行期間中の小3・4…年間授業時数は15時間(新要領の4割程度)。

英語の音声やリズムに慣れ親しむ、英語で「やり取り」や「発表」をしてみる、等

移行期間中の小5・6…年間授業時数は50時間(新要領の7割程度)。名目は教科化していない。

現行活動に加え、活字体の大文字小文字、英文や英文構造の一部を取り扱うなど
「読む」「書く」と言った活動も取り扱う。

総合的な学習の時間

来年度より小学校において「プログラミング教育」が必修化

その他

●中学校 保健体育

- ・31年度(2019)中1、32年度(2020)中1について、
「運動やスポーツの楽しみ方」「主体と環境」「調和のとれた生活」を追加、
「運動やスポーツの学び方」を削除→中2で履修
- ・32年度(2020)中2について、「生活習慣病」「薬物乱用など」を追加